残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(115号)
986-0801　宮城県石巻市水明北３丁目13番28号
TEL /0225-96-1497　Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座　02290-6-126186　口座名称　阿部　一
●代表／阿部　一　●副代表／菊池せい子

信仰：宗教改革500年目の今

●　先の地震や大雨での被害に手つかずの中で、またもや日本縦断の台風18号の襲撃で各地に大きな被害がもたらされました。皆さんの地区は被害がなかったでしょうか。
●　被災地東北も、復興途中にある沿岸地域が大雨と暴風で被害が生じたようで、今後の台風の季節が心配されます。
●今年は、マルティン・ルターが長いローマカトリックの歴史の中で人間が作り上げてきた教会組織、聖書神学に入り込んだ人間の考えに、聖書の視点からの疑問をもってヴィッテンベルクの城教会の扉に「**95箇条の提題**」を公示し、宗教改革に火を付けてから丁度500年目に当たります。
●　その中心は、その当時、告解の後求められる最終的に天国に入る前段「煉獄」で求められる罪の償いの不足分を献金で代替する贖宥券（免罪符）販売の問題であった。
●　彼は、救いは教皇の権威よるのではなく「神の一方的な恵み」であり、「信仰によってのみ与えられ」、それを保証しているのは「聖書のみ」であると抗議（protect）した。この信仰を受け入れた人達を通して宗教改革の火が燃え広がり、プロテスタント教会が生み出されて来ました。
●　しかし、聖書のみを標榜し、「からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです」（エペソ4/4-5）と聖書で教えられながら、プロテスタント教会もその長い歴史の中で多くの教派に分かれ、様々な問題を生んできました。
●　聖書では、いわゆる**地域教会**（見える教会）はキリストを頭（かしら）として、神に呼び集められた様々な賜物を持つ人達が互いに相互依存し、組み合わせられた礼拝共同体としての一つの体になぞらえられています。
●　それと同時に、その地域教会が肢体となって「ひとつとなり」公同の**普遍的教会**（見えない教会）を作ることでキリストにあっていうひとつの教会と現実に見なされています。
●　それぞれの地域教会には真に内的に新生の体験がなく、普遍的教会に属さない人がいる可能性をこれは示唆しています。物事を聖書を基準にせず人間的な基準で判断するときに、これが教会の問題として地域教会に現れて来ます。
●　それゆえに、私たちはこの記念すべき年に、教会が慣習や伝統によって人間的な運営がされていないかを立ち止まって顧みる必要があります。「この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることはありません」と宣言されている聖書のことばを基準としての識別の必要です。
●　すなわち、互いに地域教会が協力して神の栄光を第一とする普遍的教会を構成している成員として「**聖さ**」を求め、「キリストにあって一つ」を目指して行きたいと思います。

■ 先月の多くの恵みから

❶　8/29に東京の星野悦子さんよりバザー用品として、3月に引き続き未使用の食器・コーヒーセット・衣類・手芸材料・毛糸・台所用品・CD・バスタオル・タオル・花瓶・小間物入れ・バッグなど大きな段ボール2個分、また近所の大江さんから若者用にTシャツ・外套・スポーツシャツなど1箱分を献品頂きました。最も有効な支援を検討中です。

❷　8/27に、塩竈BBCの牧師でMMNの責任者の大友幸一師が大内兄と一緒に訪問下さり、活動の情報交換しました。
❸　水曜日の祈り会でCGNTVで放映の藤本満師の講解説教と抱き合わせて学んできたキャンベル・モルガンの「**十戒**」が終わり、新しく「**ハイデルベルク信仰問答**」の学び

を開始しました。
❸　8月は夏休みで休会していました諸集会の「聖書を読む会」・「楽しい手芸の会」・「ほっとTime」・「コーラス・花」の活動が9月に入り再開されました。
❹　9/3の礼拝に、東北ヘルプ代表の川上直哉師のご両親が出席されお交わりが許され感謝しました。
❺　9/7の「**宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会準備委員会**」の第4回目に出席できました。来年3/10(土)に南三陸のホテル観洋で追悼記念会、3/11(日）は気仙沼・米山町・石巻で記念コンサートを開催することが決まりました。
❻　9/9にビッグバンで開催された石巻市主催の「**敬老会**（77歳以上）」に参加できました。
❼9/16に、その前日夜に恩師の危篤の電話があり、急遽米沢に行って来ました。恩師の見舞いと別の恩師の息子さんと介護施設に入居中の奥様、そして腰の病で長期入院されていたクリスチャンの友人を訪ねることが出来ました。
❽　9/17に、Dr.木下夫妻から山梨のブドウ、長野の松田姉より見事なプラムを送って頂きました。
❾　9/15にICCの天野兄、9/17にCrash Japanの永井敏夫師、9/20にFFCのCole師ご夫妻が訪問して励ましを下さいました。Cole師から石巻の教会へ子育ての本と先生が書かれた本「**2つのドア**」を預かり9/21のIMNで各教会にお渡ししました。
❿　10/1にHoly hope projectの竹下　力師が礼拝の奉仕をして下さいます。継続してのご奉仕に感謝です。
⓫　18月も献金・献品・手紙・電話・mailでの励まし、そして陰での継続的な祈りで小さな群の活動を支えて頂き感謝します

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

① 自宅で療養中の大平姉の戦いのために祈り支えて下さい。
② 長野県佐久市で奉仕されて来た濱　道子姉の回復のために。
③ Dean師の10/18までのアメリカでの訪問報告旅行のために。
④ 今野さんが続けて礼拝に参加されています。ガンの転移がありますので心身共に守られますようにお祈り下さい。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10：00-11：30
・祈り会（毎週水曜日）	10：00-11：30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10：30-12：00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10：30-12：00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13：30-15：00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10：00-12：00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

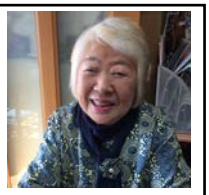
信仰を詠う

10月 戦争を知っていますか

人間を壊す兵器をつくるのは
　　人間ですね　琚(しか)と違いなく

「核」落し為政者満面笑み湛う
　　とぐろ巻く闇　灯りよ切に

戦争が起こってももう逃げないと
　　決めても動悸ミサイル発射



阿 部 八重子

第三次戦争が、と動揺する様な情勢の今日。いやがうえにも戦時の日本と重なり胸がつぶされる。聖い灯りが欲しいです。

● ＜祈り＞震災後、石巻地区で20ケ所以上になった教会や宣教活動場所が主の栄光のために１つとなることが出来るように。

8月末から9月末までに来訪された先生・兄姉および「祈りの家」の教会活動の様子

9月から再開された「楽しい手芸の会

喫茶店雰囲気での「ほっと・Time」

9/3の礼拝にの川上政孝師ご夫妻出席

9/15ICCの天野兄来訪

8/27大友幸一師・大内兄来訪

9/16米澤の恩師の息子さん訪問と入院中の別の恩師の見舞い

8/29東京の星野悦子さんより教会バザー用に沢山の未使用グッズ献品

9/9初めて市主催の『敬老の会』に参加

9/7 第4回3.11追悼記念会準備会

Dr.木下からのぶどうに感謝を込めて

9/20Cole師夫妻来訪

9/17永井敏夫師来訪し、趙師夫妻と交わり

9/21INCでのIMN9月例会で

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

母　の　教　え　(2)

キリスト教会「石巻祈りの家」代表　阿 部　　一

私が酒田工業高校に奉職して4年目に結婚に導かれ、宮城県の母校に勤務していた妻が退職して酒田で結婚生活を始めた。そして長男、次男、そして長女と3人の子供が年子のように与えられた。その長女が生まれた年に、漸く母は私たちと一緒の生活が出来るようになった。

長女は、母の背中で育ったようなものである。当時の高校教師の給料は安く、仕事を辞めた妻も家でピアノを教えていたが年金を支給されていた母は、自分から喜んで生活費を支援してくれたことを後から妻から聞いた。

3人の孫たちと過ごせる生活と私たちの生活を手助けできる自分を何よりも喜んで、その孫たちが小、中、高、大学と成長する姿を楽しみながら、経済的に援助を惜しまなかった。子ども達はおばあちゃんの大きな愛に包まれて成長した。

昭和47年10月ころ「こちらも孫の姿をいつも見ていたい」と養父母から宮城県への転勤を要望された。宮城県の教員採用試験は既に終わっていた、しかし、神はを1対1交流というチャンスの少ない方法を通して翌昭和48年に3月に宮城県の高校への転勤の道を開いてくれた。

その年の夏休みに、毎年お茶の水女子大で開催されていた「**化学教育の現代化講座**」を学んで帰宅した翌日、昼食も忘れて夢中で化学実験をしていて、空腹に気づかされて実験を切り上げた。そして、自転車での帰宅途中、免許取り立てだった未成年の脇見運転で後ろから追突され、ブレーキとアクセルを間違えたためにフロントガラスに頭が叩きつけられ、今度は急ブレーキで体は空中を20m以上も飛び田圃に頭から突き刺さるという大きな事故に遭った。

意識が回復したのは数日後で、九死に一生を得たがそれから約7ヶ月余の入院となり、更に2年はほとんど仕事が出来ない状態であった。まだ子供は小さく手のかかる時期であったから、妻と母が交替で病院に詰めて介護してくれた。同僚の全面的な支援と母の介護がなかったら、到底その後は仕事は続けられなかったと思う。現在も続く天気の変動による後遺症で苦しむ度に、母の忍耐強い支えと愛を改めに有り難く思う。

自分も極貧の中で育ち、夫を戦争で亡くし私たちを育ててきた母は、自分の家族だけでなく、困っている人がいると我が事のように心配した。私の教え子が大学に合格したが入学金が払えないで困っているということを話したら、黙って郵便貯金通帳を差し出した。また、先の教会建築で資金が足りないのを耳にした時も、沢山の献金をしてくれた。

そんな母が、小さいときから孫たちが食事の感謝をする姿と私たちの信仰生活を見て、家族と一緒にと礼拝に出席するようになった。また、キリストの生涯のビデオも熱心に見ていてその内容を良く覚えていた。

その母の救いが私たちの大きな祈りの課題となっていた。そんある晩、私は電撃的ななショックで目が覚めた。「お前たちの祈りに応えて、母を救いに導く」という不思議なか細い声を聞くのである。そうして数日後、いつもより早く帰宅した土曜日の午後に、誰もいない居間でガラス窓からの明かりの中で静かに新約聖書の文字を一字一字拾い読みをしている老いてきた母の姿を目にする。その頃から良く東京にいる弟たちに電話をして、今の生活がどんなに幸せかを伝えていた。そのことがあって疎遠になっていた母の実家の家族も東京の弟たちも訪ねてきて、妻と親子のように隔てない生活を見て安心し、喜んでその後の親しい交わりに変わった。

高齢になっても母も、妻と一緒に家事全般を楽しんでいた。また、これだけは叶わないと思わされてきたが、母は他人の喜びを我が事のように心から喜べる人であった。その後、畳の縁に躓いてくるぶしを痛め、歩くことが困難になった。「オレのする事がないと辛い」と妻に語り、台所まで膝行り寄って立ち上がり、食事後の食器の洗いなどをしていた。汚れが十分に見えず妻がそれを洗い直すこともままあったが、母の気持ちを大事にして、洗濯物の片付けやアイロンがけなども自分から行っていた。

軽い脳梗塞が続き、ベッドに伏すようになったが、牧師の話にも喜んで耳を傾け、その導きにはっきりと応答して、イエス様を自分の救い主として信じた。それ以来、妻から「神さまにお祈りすると神さまはその祈りに答えてくれるからね。」と教えられると子供のようにそれを真っ直ぐに受け入れ、自分の兄弟や孫たち、自分の健康のためにも静かに祈っていた。そしてやって貰うことに「有り難う」と感謝を述べ、「生きていても幸せだし、死んでも幸せだ」と口癖のように言っていた。

「おばあちゃん。今晩何食べたい」という妻の問いに「洋子（私の妹）の送ってくれた米澤牛の牛丼でも。」との要望に、妻の作った「牛丼」を「旨いな、旨いな」と食べた夜、昏睡状態となり、82歳で天に帰った。偉大な母には及びもつかないが、その一途さにいつも励まされる。